



韓国最大規模のアニメ・ゲームイベントで自治体の魅力を発信

(一財)自治体国際化協会ソウル事務所 所長補佐 木下 祐也 (愛媛県派遣)

AGF2023 (Anime × Game Festival)

2023年12月2日と3日、ソウル駅から地下鉄で約50分の距離に位置する京畿道高陽市のコンベンションセンター KINTEX で、韓国最大のアニメ・ゲームイベントである AGF2023 が開催されました。

主催者である AGF2023 組織委員会は、ANIPLUS INC.、DAEWON MEDIA、ソニー・ミュージックエンタテインメント、D&C Media の4社で構成されており、ソニー・ミュージックエンタテインメントが日本側の窓口を担っています。

AGF は 2018 年に初開催され、今回は 4 回目の開催となりました。2 日間の来場者数は、6 万 5,442 人と前年比で 37% の増となり、韓国のポップカルチャーへの関心の高さをうかがうことができます。



会場外まで続く入場者の待機列

日本自治体×アニメーションブース

クレアソウル事務所は、韓国のポップカルチャーファン層への認知・拡散を図るため、アニメや漫画などと連携して PR に取り組んでいる自治体を「日本 지자체 × 애니메이션」(※日本自治体×アニメーション)と銘打ちブースを展開しました。19 の都県市に協力いただき、アニメや漫画と関わりのある自治体の PR コーナーを開設し、パンフレットやポスター・日本地図の掲示、フォトスポット、PR 動画の放映など多様なコンテンツを盛り込みました。

自治体や版権元の協力により実現した、宮城県岩沼市が舞台の「バクテン!!」のキャラクターパネルや青森県弘前市と北海道函館市が実施している「ひろはこ×桜ミク」イラストをはじめ、茨城県大洗町「ガールズ&パンツァー」、鳥取県倉吉市の「ひなビタ♪」、静岡県沼津市の「ラブライブ! サンシャイン!!」、和歌山県和歌山市の「サマータイムレンダ」、香川県高松市「城郭合体オシロボツ、リンカイ!」の全7か所のフォトスポットで参加者への PR を図ることができました。



ブースの全体像

上記のフォトスポット6か所を撮影し、SNS 上への投稿およびアンケートをミッションとしたスタンプラリーを実施しました。自治体の風景写真にアニメキャラクターが溶け込んだカレンダーやポストカード、キャラクター缶バッジなど多様な賞品を用意し参加を促すとともに、関心の高い分野から日本の自治体を知る契機づくりとしました。2 日間での参加者は約 2,000 人となりました。



スタンプラリーの参加者

今回のクエアブースのメインコンテンツとして、AGF 公式のサブステージに日本から声優らを招いて日本各地の魅力PRを行う、スペシャルトークショーを実施しました。1日目は、「Fate / stay night」など多くのアニメに出演している植田佳奈さんが、これまで訪問したことのある、北海道の釧路湿原、沖縄県宮古島、岩手県の安比高原、長崎県のハウステンボスの思い出を語られたほか、この地域を訪れたときのお土産には欠かせないという沖縄のシークワサーポン酢や京都のごま大根などを紹介いただきました。

また2日目には、アニメ「ガールズ&パンツァー」で主人公の西住みほ役を演じる淵上舞さんと同作品プロデューサーの鳥居玲さんが、このアニメの舞台である茨城県大洗町について、大洗あんこう祭に出演された際の感想や、作品の中で描かれた大洗町と実際に大洗町を訪れたときに感じたことなどをお話いただきました。

両日とも、来場者にサイン色紙やサイン入りポスターをプレゼントするじゃんけん大会を行い、会場は大いにぎわいを見せ、日本の地域の魅力を感じてもらうことができました。



ブルーステージでの淵上舞さんと来場者の様子

韓国では、放送、ゲーム、音楽、アニメーションなどさまざまなコンテンツの制作支援や企画、流通、海外進出などの後方支援を行うコンテンツ振興院 (KOCCA) が、韓国のコンテンツ産業を網羅しており、K-POP や WEB トゥーンなどの躍進に寄与しています。

2022、2023年に韓国でも話題となった「THE FIRST SLAM DUNK」や「すずめの戸締まり」に代表されるように、韓国でのアニメや漫画の人気はますます高まっていますが、農林水産分野でのブランド被害もあったように、一般的に、人気と比例して権利関係の問題も増加しています。

今回の AGF 出展でも日本国内のライセンスと韓国とのライセンスと競合しないかやコピーライトの記載など、各著作権元が有する著作権や放映権などの権利関係には十分注意して実施しました。 著作権元の監修を受けたフォトスポット



また、アニメや漫画の人気上昇に伴い問題となった訪日旅行の際のオーバーツーリズムも記憶に新しいです。聖地と呼ばれる作品の舞台となった土地や関連場所などへの観光客の殺到は、しばしば地域とのギャップを生んでいます。アニメや漫画の海外市場が今後さらなる拡大を見せたときに、適切に対応できるかは、作品の作り手側、消費者、地域とのかかわり方も重要になってきます。

アニメや漫画と連携した自治体は全国に多くありますが、そのすべてがうまくいっているとは言えず、いくつかの要因があるものの、自治体はその作品にどのように接するか、地域の受け皿としてどのように関わるかを突き詰める必要があるのではないかと思います。



パンフレットを手にする来場者とブースの様子

アニメや漫画のファン層に向けて実施した今回のクエアソウル事務所のブースですが、今後の課題となる部分も多くあったものの、インバウンドに限らず地域ならではの物産を利用した輸出入という面からも可能性を感じるところでありました。日本の自治体での地域間の競争もある中で、いかに海外から人を呼び込むか、地元商品の需要を掘り起こすかについて新しい視点をいただければと思います。2024年もAGFは実施され、さらに規模を大きくすると聞いています。ぜひ興味のある自治体は、クエアソウル事務所までご連絡を。